

科 目		必・選	担 当 教 員	学年・学科			単位数	授 業 形 態					
日本経済論 (Japanese economy)		必	重松正史	4 年生 環境都市工学科			1	半期 週 2 時間					
授業概要		日本経済の現状を世界経済との関わりでとらえる											
到達目標		1 金融危機や資源問題など世界経済の問題点について概況を説明できる 2 日本の製造業と雇用の現状と問題点の概況を説明できる 3 日本の社会保障と財政について、その現状と問題点の概況を説明できる											
評価方法		定期試験（2回）70%、課題30%											
教科書等		毎回プリントを配付する											
内 容									学習・教育目標				
第 1 週		金融危機・ヨーロッパの債務危機、なぜ起きたか							A				
第 2 週		銀行の現状と「カネあまり」（日本のメガバンク）							A				
第 3 週		金融取引のあり方、ヘッジファンド							A				
第 4 週		資源エネルギー問題（1）何が問題になっているか？							A				
第 5 週		資源エネルギー問題（2）各国の資源エネルギー戦略と日本							A				
第 6 週		日本の製造業（自動車、電機などの現況）							A				
第 7 週		先端技術と「画期的な商品」							A				
第 8 週		アジア経済と日本（1）（経済関係の概況）							A				
第 9 週		アジア経済と日本（2）（技術力の差はどの程度か？）							A				
第10週		労働力の国際移動と非正規雇用							A				
第11週		雇用形態の変化と日本の労働時間							A				
第12週		トヨタ生産方式とその限界							A				
第13週		日本の社会保障（セーフティーネット）							A				
第14週		日本の財政危機							A				
第15週		まとめ、日本経済の課題							A				
第16週													
第17週													
第18週													
第19週													
第20週													
第21週													
第22週													
第23週													
第24週													
第25週													
第26週													
第27週													
第28週													
第29週													
第30週													
(特記事項)			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習 ・教育目標	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			○										

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。）

[ガイダンス]

第1週～第3週

- ①世界で頻発する金融危機について、その概況を知る
- ②日本の「メガバンク」について、どのような問題点があるかを知る
- ③なぜ「カネ余り」が生じるのか、その基本的な原因を知る

第4週～第5週

- ①石油・水・食料などの基礎的資源をめぐる世界の動きを具体的に見る
- ②資源をめぐる世界的葛藤が日本経済にどのような影響を与えているのかを知る

第6週～第7週

- ①日本の製造業の現状を自動車・電機などの基幹産業について具体的に見る
- ②先端技術とそれを用いた製品（サービス）が日本経済の今後を切り開きうるか否かを具体的に考える

第8週～第9週

- ①日本経済と中国・韓国との関係について具体例を通して見る
- ②日本経済と東南アジア（タイなど）の関係について具体例を通して見る

第10週～第12週

- ①日本の雇用のあり方について、現状と問題点の概況を知る
- ②労働時間の観点から日本の労働のあり方とその問題点について考える
- ③トヨタ生産方式について、基本的な考え方を知る

第13週～第14週

- ①日本の財政と社会保障について、基本的なあり方と問題点を知る
- ②セーフティーネットという考え方について、その基本を知る

第15週

全体のまとめとして、日本経済の課題を考える